

令和5年3月28日 令和4年度地域貢献学術研究 成果発表会

防災の担い手を育成する  
地震・津波防災教育に焦点化した  
学校実践力と行政援助力の向上支援

宮崎市令和4年度地域貢献学術研究助成金事業

宮崎大学工学部  
工学基礎教育センター  
川崎 典子  
kawasaki@cc.miyazaki-u.ac.jp

# アウトライン

- ・はじめに
  - 研究の構想
- ・研究活動の内容および成果
- ・おわりに
  - 研究活動で見えてきたこと

# 研究の構想

## 学校実践力

学校と地域が一体となった防災教育実践力

## 行政援助力

宮崎市教育委員会の情報発信力の強化  
学校への情報共有と助言指導

「みんなで自分ごと化」 学校・地域・行政の協働体制の構築

### 申請内容

研究名：防災の担い手を育成する地震・津波防災教育に焦点化した学校実践力と行政援助力の向上支援

研究期間：2022年5月1日～2023年2月28日

### 研究実施体制 ※構想図を次のスライドに示す

研究代表：川崎典子（宮崎大学工学部・准教授）

教育社会学（学校防災教育）での共同研究

研究分担：中野元太（京都大学防災研究所・助教）

研究協力：高内安春（宮崎市教育委員会学校教育課・指導主事）

宮崎市教育委員会との協働／技術移転

技術協力：熊野稔（宮崎大学地域資源創成学部・教授）

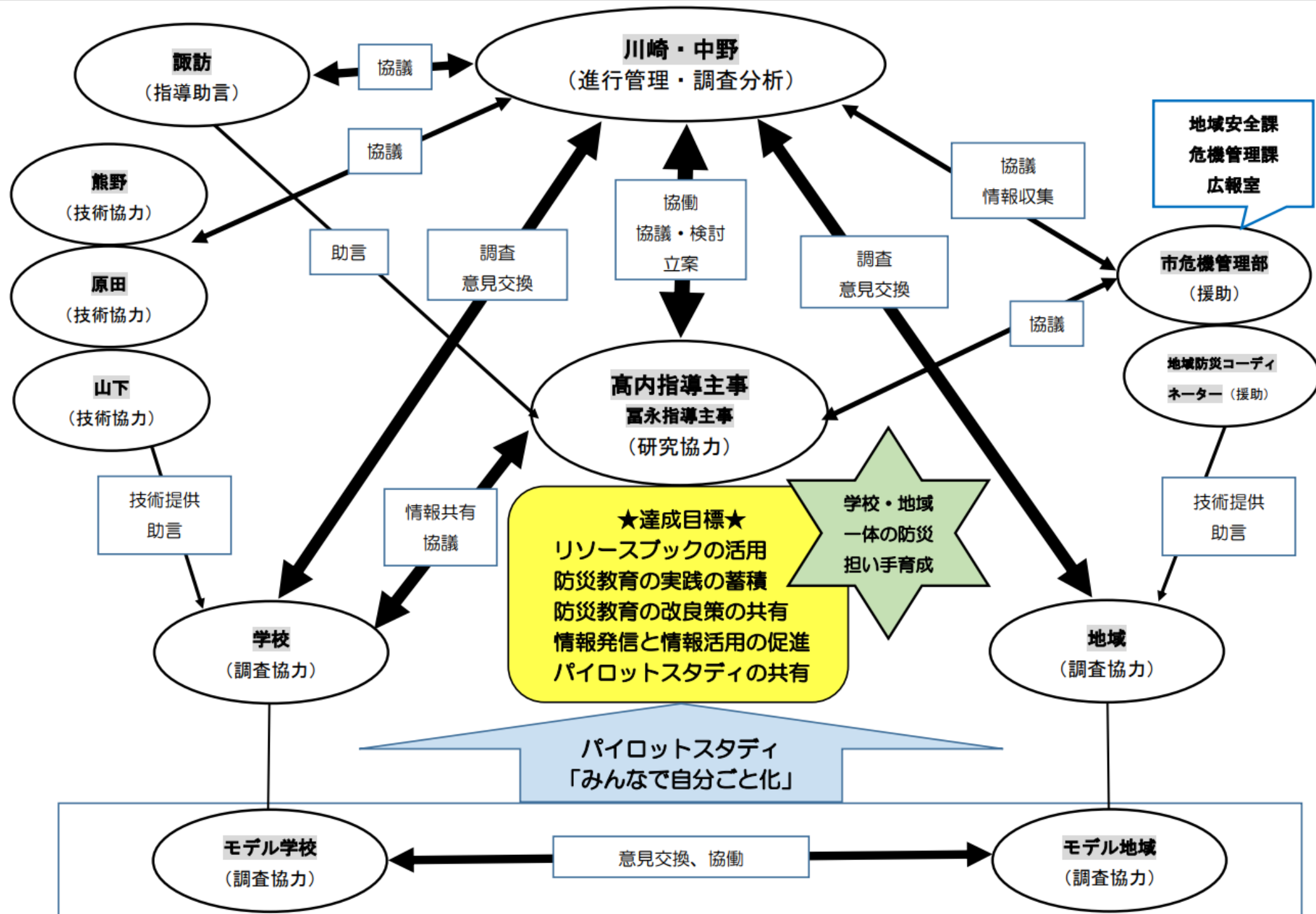
原田隆典（宮崎大学・名誉教授、地震工学開発研究センター・技術顧問）

工学と理学  
（都市計画、  
地震・津波）

山下裕亮（京都大学防災研究所宮崎観測所・助教）

指導助言：諏訪清二（防災教育学会・会長）

教育社会学（学校防災教育）からのフィードバック



# 研究活動の内容

- ① (高知県での) 先行事例の収集および  
リソースブック素案・防災教育改良案の検討
- ② (モデル地区での)パイロットスタディの実施
- ③ (宮崎市教育委員会と) 防災教育リソースブックの作成
- ④ (宮崎市教育委員会と) 宮崎県・宮崎市の防災教育の情報収集
- ⑤ (宮崎市教育委員会による) フィードバックと情報発信
- ⑥ (宮崎市教育委員会と) 外部関係者との協議
- ⑦ (宮崎市教育委員会による) 今後の方向性の検討

# ① 先行事例の収集および リソースブック素案・防災教育改良案の検討

- ・ 高知県で防災教育関係者と情報交換し、宮崎市の防災教育について検討する。
- ・ 宮崎市教育委員会とともに、リソースブック素案と防災教育改良案を考える。

面談者	情報交換の内容
黒潮町教育委員会 教育次長・藤本氏	黒潮町内自治体の取組／好事例を持つ学校の情報 教育行政機関としての考え方
黒潮町立大方中学校 校長・大塚氏	中学校での実践／地域等との連携／前任校での取組 校長としての教育方針
四万十町立興津小学校 校長・坂本氏	小学校での実践／地域等との連携／校長としての教育方針
高知市立南海中学校 校長・広瀬氏	学校での実践／防災クラブの取組／クラブ生徒との意見交換
高知市教育委員会 指導主事・安田氏	安全教育担当の役割／教員研修等の内容／好事例を持つ学校の情報 教育行政機関としての考え方
高知県教育委員会学校安全対策課 課長補佐・清久氏	「高知県安全教育プログラム」に関する情報提供 教育行政機関としての考え方

宮崎市内海小学校・  
永山校長先生からの  
メール相談

宮崎市教育委員会・  
高内指導主事との  
オンライン協議

# ① 先行事例の収集および リソースブック素案・防災教育改良案の検討

- ・宮崎市教育委員会とともに、リソースブック素案と防災教育改良案を考える。

## リソースブック

教員向けの情報を集めた参考資料

防災教育の必要性だけでなく、魅力や教育アプローチについても考えられる内容

## 防災教育改良案

宮崎市の小学校・中学校の防災教育の実態調査

近い状況にある他県他市町村の事例から応用

## ～成果～

### ① 先行事例の収集および リソースブック素案・防災教育改良案の検討

- 高知県（黒潮町、四万十町、高知市）を訪問し、それぞれの立場で防災教育の実践や支援に取り組む方々から話を聞き、インタビューすることができた。インタビュー内容と資料を持ち帰り、宮崎市教育委員会とパイロットスタディ実践校に共有した。
- 他県および他市町村の事例を参考にしながら、宮崎市教育委員会とともにリソースブック素案と防災教育改良案について話し合うことができた。
- オンライン協議によって、宮崎市教育委員会と高知市教育委員会をつなぐことができた。また、メール交換によって、宮崎市内海小学校と四万十町興津小学校をつなぐことができた。



## ② パイロットスタディの実施

- ・南海トラフ地震や日向灘地震への備えを急ぐ場所であり、学校・地域連携で防災教育を実践するモデル地区（内海地区・木花地区）にある小学校と中学校で、地域住民、研究者、防災コーディネーターなどを交えた意見交換・授業公開等に取り組む。
- ・学校・地域・行政の協働体制を構築し、様々な立場の者が集まって自他の視点で防災教育について考える。

### 内海地区

内海小学校 × まちづくり推進委員会（自治会） × 地域防災コーディネーター  
＋研究者＋指導主事

### 木花地区

木花中学校 × まちづくり推進委員会（自主防災組織） × 地域防災コーディネーター  
＋研究者＋指導主事

# 内海小学校 × 内海地区

校長先生、教頭先生、防災主任教員  
教職員の方々

まちづくり  
推進委員会

地域防災  
コーディネーター

研究者

指導主事

計画名	時期	内容	対象	講師（分野）
①出前授業	8/29(月) 9:35-11:15	参加体験型学習を実施する	児童、教員	山下氏（理学 地震学）
②避難訓練	9/1(木) 8:20	避難訓練の様子を見て評価する ※動画撮影して後日検証	児童、教員	安田氏（まちづくり） 谷口氏（地域防災）
③避難後の 対応の検討	9/1(木) 訓練後	様々な環境下で救援を待つ間の対応策を検討する	校長、教頭、 防災主任	安田氏（まちづくり） 谷口氏（地域防災）
④避難方法 の検討	7/27(水) 13:30-15:00	専門家との協議で複数の避難方法を検討する ※校内職員研修として実施する	校長、教頭、 防災主任	原田氏（地震・津波工学）
⑤安全マッ プ作り	11/11(金) 8:20-11:40	安全マップの作成と使い方について考える ※スマホアプリ「逃げトレ」を活用する	児童、教員	自治会 杉山氏（防災教育） 山下氏（理学 地震学）
⑥講話	9/1(木) 避難直後	地域防災（考えられる課題など）について話をする	児童、教員	安田氏（まちづくり） 谷口氏（地域防災）
⑦合同会議	1/27(金) 13:30-14:30	内海地区の防災について包括的に協議する ※コミュニティスクール事業との連携	校長、教頭、 防災主任	高内指導主事（教育行政） 川崎（防災教育）

# 内海小学校（2022年7月27日）

## 避難方法の検討：外部講師による教員研修

【対象】 内海小学校 永山校長先生・教頭先生および教員 4名

【講師】 地震工学開発研究センター 原田氏

【参加者】 地域防災コーディネーター 谷口氏、青島まちづくり推進委員会 安田氏

### 【内容】

- ・ 教員研修で南海トラフ巨大地震と日向灘地震の想定について認識を深める。
- ・ ハザードマップの見方を知り、活用方法について考える。
- ・ 講師との意見交換を通して避難訓練等で感じていた不安や疑問を解消する。

### 【成果】

- ・ 教員が南海トラフ巨大地震と日向灘地震の発生予測と規模の大きさを知り、地震・津波への備えを再認識した。
- ・ 教員が講師との意見交換を通して避難訓練等で感じていた不安・疑問（トンネル上の高台避難のあり方、道の駅までの車での避難の選択と決断）を解消することができた。南海トラフの新想定では、高台避難には高さの不足と崖下という物理的状況のリスクがあること、道の駅への移動経路には土砂崩れの可能性があることを確認した。
- ・ 学校側で考えていた保護者引き取りのあり方については、居住地域の特性を考慮すれば難しいことを確認した。

# 内海小学校（2022年8月29日） 児童全員への出前授業

【対象】 児童全員 18名、教員 4名（ほかに校長先生・教頭先生も見学）

【講師】 京都大学防災研究所 山下助教

【参加者】 地域防災コーディネーター 谷口氏、青島まちづくり推進委員会 安田氏

## 【内容】

- ・ 巨大地震のメカニズムを知り、地震・津波対策で取るべき行動について考える。
- ・ 地震観測機器を実際に見て触れながら、観測の仕組みを知る。

## 【成果】

- ・ 児童が講師との双方向のやりとりで地震・津波のメカニズムを理解した。参加型の授業で体験的に地震・津波の仕組みを深く知ることができた。
- ・ 児童が観測機器を実際に見て触れることで、今まで知らなかった地震観測について興味を持って学んだ。
- ・ 児童が地震・津波の威力を知り、災害に備えることの大切さを学んだ。
- ・ 事前ワークシート等で家庭に持ち帰って学ぶ方法を取り入れたことで、児童とともに保護者等の大人も理解を深めることができた。

# 内海小学校（2022年9月1日） 避難訓練の見学、学校と地域の意見交換

【参加者】 内海小学校 永山校長先生・教頭先生、地域防災コーディネーター 谷口氏、青島まちづくり推進委員会 安田氏、京都大学防災研究所 中野助教・山下助教

## 【内容】

- ・ 外部関係者ととともに地震・津波発生時の避難訓練を見学し、フィードバックを与える。
- ・ 学校管理者と地域防災関係者が協議の場を持ち、避難場所の選択と迅速な移動、避難後の対応方法について、それぞれの視点から考えられることを出し合う。

## 【成果】

- ・ 防災コーディネーターと地域住民が学校の避難訓練を見学することで、学校と地域の両方で災害時の避難について理解を深める。津波発生時には避難場所の選択で苦慮している現実についても共有された。
- ・ トンネル上の高台では浸水深と立地面（崖下であり、備蓄品はない）から避難上の不安が大きいことを確認した。
- ・ 津波避難後に数日間の待機が求められる場合の懸念材料（防災食・水、トイレ、日よけ・雨除け）が共有された。
- ・ 新しい避難方法（新トンネル内の徒歩での避難）については学校と地域で検討協議を重ねる必要があり、道路整備局との交渉なども今後必要であることが確認された。
- ・ 地域の課題（高齢化による防災活動の不安、高齢者と園児・児童および教職員しか居住地区にはいない平日日中の状況）が共有され、高齢者への避難を諦めない呼びかけが必要であり、学校の協力の可能性について検討された。

# 内海小学校（2022年11月11日）

## 安全マップ授業の視察

【参加者】 地域防災コーディネーター 谷口氏、青島まちづくり推進委員会 安田氏、東京大学 杉山助教、京都大学防災研究所 山下助教、宮崎市教育委員会 高内指導主事

### 【内容】

- ・ 児童全員が3グループに分かれて、地域住民（見守り隊）3名のガイドで居住地域にある危険な箇所を見つけて歩く。散策中にタブレットPCで写真を撮りながら記録していく。
- ・ スマホアプリ「逃げトレ」を使って津波の到達時間を確認する。
- ・ 記録したデータを持ち帰り、グループで手作りの安全マップを作成する。作成したマップを使って活動報告をする。

### 【成果】

- ・ 小学生が地域住民からの説明を聞きながら今まで子供だけの視点では気づかなかったことを発見できた。
- ・ 小学生が授業を通して地域住民の存在をより身近に感じる事ができた。
- ・ 従来の講話・講演型ではない、地域住民の特技を生かした参加体験型の授業を導入することができた。
- ・ ロイロノートに加えて、スマホ（東京大学から貸与）によるアプリを用いて、デジタル教材を生かした授業の実践例となった。

# 木花中学校 × 木花地区

校長先生、教頭先生、防災主任教員  
教職員の方々

まちづくり  
推進委員会

地域防災  
コーディネーター

研究者

指導主事

このはな防災塾

計画名	時期	内容	対象	講師（分野）
①出前授業	9/15(木) 14:05-15:55	地震・津波対策の防災支援に関して講演する	2年生生徒、 教員	熊野氏（都市計画） 川崎（防災教育）
②避難訓練	11/11(金) 14:25	避難訓練の様子を見て評価する	生徒、教員	まちづくり推進委員会
③避難後の 対応の検討	11/11(金) 訓練後	救援を待つ間の対応策や避難所運営方法を検討する	校長、教頭、 防災主任	まちづくり推進委員会
④防災食の 体験	9/15(木) 14:05-14:55	防災食の意義と作り方を考える ※オンラインでの生配信を取り入れる	1年生生徒、 教員	河野氏／前田氏（防災食）
⑤講話	9/1(木) 15:00-16:30	学校設備（防災倉庫、マンホールトイレ、かまどベンチ）について話をする ※部活動や生徒会活動と関連付ける	部活動代表、 生徒会委員、 教員	防災塾員（まちづくり） 谷口氏（地域防災）
⑥合同会議	1/27(金) 15:00-16:00	木花中地区（災害想定異なる3小学校で構成され、災害碑を有す）の防災教育について包括的に協議する ※コミュニティスクール事業との連携	校長、教頭、 防災主任、 教務主任	高内指導主事（教育行政） 川崎（防災教育）



# 木花中学校（2022年9月1日）

## 講話：学校にある防災設備と備蓄品の点検

【対象】 部活動主将・副主将および生徒会委員 26名、教員 4名

【講師】 木花まちづくり推進委員会／このはな防災塾 6名、地域防災コーディネーター  
谷口氏

### 【内容】

- ・ 地域住民の主導で学校防災設備の置き場所と役割を点検する。
- ・ 地域防災コーディネーターの立ち合い指導でマンホールトイレを設営し、参加者全員でその仕組みを理解する。
- ・ 備蓄品の中身と数量を確認する。

### 【成果】

- ・ 中学生が具体的な避難生活のイメージを持ち、避難生活を支える存在となる自覚を持てた。
- ・ 中学生および教員がマンホールトイレの組み立て方を知ることができた。
- ・ 地域住民が避難所となる学校の防災設備と備蓄品について理解を深めることができた。
- ・ 学校と地域が協働して防災活動に取り組み、さらには地域防災コーディネーターの活用で防災力を高めた。
- ・ 中学校側では、日頃は目にしない防災設備や備蓄品を実際に目にして確認（点検）する機会とすることができた。



# 木花中学校（2022年9月15日）

## 中学2年生への出前授業

【対象】 中学2年生 92名

【講師】 宮崎大学 熊野教授・川崎・川邊さん

【内容】

- ・ 南海トラフ巨大地震の想定と居住地域の被害について考える。
- ・ 他国・他県の防災の取り組みを通して宮崎の防災の取り組みについて考える。

【成果】

- ・ 中学生がより深く南海トラフ巨大地震のメカニズムについて学び、防災の必要性について考えることができた。
- ・ 中学生が居住地域で予想される被害想定について知識を深め、地震・津波への備えについて考えることができた。
- ・ 中学生が他国（バヌアツ共和国）と他県（大分県）の防災の取り組みを知り、当たり前だと思っていた自分達の防災の取り組みとの類似点と相違点について考えることができた。
- ・ 中学生が大学教員・大学生の話聞くことで、将来大学で学ぶイメージを持つことができた。

# 木花中学校（2022年9月15日）

## 防災食の体験：中学1年生への出前授業

【対象】 中学1年生 106名

【講師】 木花まちづくり推進委員会／このはな防災塾 2名、宮崎大学 川邊さん

【内容】

- ・クイズを通して身近なことから防災について考える。
- ・在宅避難時（インフラが止まった状況）の簡易な食事の作り方を知る。

【成果】

- ・クイズ形式の参加型授業により、中学生が集中して楽しく防災について考えることができた。授業後アンケートからも「家族等の周りの人々と情報を共有したい」という声が多くあり、学校で学んだ子どもを通して大人に伝播するという防災授業のメリットを生かした。
- ・（感染症対策の観点から調理実習を中止する代わりに）調理の様子をオンライン生中継したことで、中学生が具体的に防災食について学ぶことができた。
- ・中学生が授業を通して地域住民の存在をより身近に感じることができた。
- ・従来の講話・講演型ではない、地域住民の特技を生かした参加体験型の授業を導入することができた。
- ・学校のデジタル環境を用いて、オンライン配信を生かした授業の実践例となった。

# 木花中学校（2022年11月11日）

## 避難訓練の見学、学校と地域の意見交換

【参加者】 木花中学校 川口校長先生・教頭先生・教務主任・防災主任、木花まちづくり推進委員会 古賀氏・原口氏、宮崎市教育委員会 高内指導主事

### 【内容】

- ・地震を想定した全校生徒による避難訓練を見学して評価を与える。
- ・学校管理者と地域防災関係者が協議の場を持ち、避難所となる学校で災害時の地域との連携協働について考える。

### 【成果】

- ・地域住民が学校の避難訓練を見学することで、学校と地域の両方で災害時の避難について理解を深める。津波発生時の水平避難のために学校外への避難がありうるということについても共有された。
- ・学校が避難所となることへの不安材料（体育館の鍵の管理、グラウンドへの車両進入経路、学校周辺での車による渋滞）について出し合い、課題解決に向けた方策を出し合うことができた。
- ・地域の課題（高齢化による防災活動への不安、防災を担う若手人材の育成）が共有され、学校が構想する地域学習・探究学習との連動による連携協働の可能性が見出された。
- ・学校側では、地域住民による出前授業の効果を感じており、地域との連携共同の観点からも今後の継続を考えている。木花中校区のコミュニティスクールの一つの共通項として「防災」が考えられる。

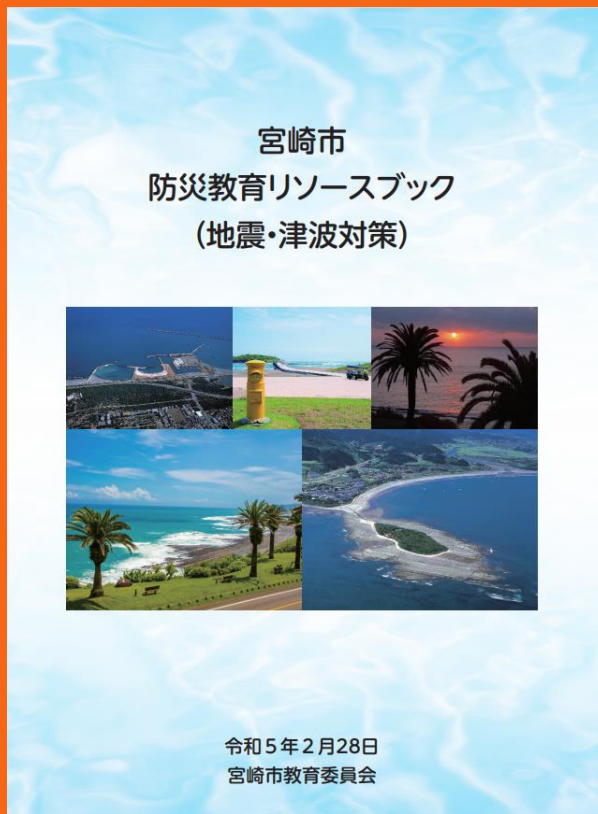
## ～成果～

### ②パイロットスタディの実践

- 学校教員からは、今年度の取組の有用性を実感し、研究活動後も継続・発展させたいという感想が聞かれた。（宮崎市教育委員会主催）防災主任教員研修の場で、パイロットスタディの結果を公表し、両校からの実践発表を行い、市立小学校・中学校に広く情報共有することもできた。
- 両校にとっては、これまでつながりを持てなかった専門家や自治会・自主防災組織との連携・協働の利点を知り、各校の防災教育を見直して活性化に向けて学校で主体的に動く機会となった。
- 学校が地域防災コーディネーターや自治会・自主防災組織と深くつながる機会となり、複数の関係者で今後の教育支援についても話し合われた。

# ③ 防災教育リソースブックの作成

- ・ 教職員のための参考資料「宮崎市防災教育リソースブック（地震・津波対策）」を作成した。
- ・ 宮崎市教育委員会を通して、市立小学校・中学校全校に配布し、ウェブサイトで情報公開する予定である。



## 目次

はじめに	2
<b>1章 防災教育の魅力</b>	<b>3</b>
防災教育の面白さ、その影響力や可能性 (担当:諏訪 清二)	3
<b>2章 宮崎市における防災教育の重要性</b>	<b>6</b>
地震のメカニズム、日向灘地震・南海トラフ地震の地震像 (担当:山下 裕亮)	6
宮崎県の地震・津波対策と被害予測およびハザードマップの活用 (担当:原田 隆典)	9
宮崎市の地域防災 (担当:熊野 稔)	12
<b>3章 防災教育の好事例</b>	<b>15</b>
他の都道府県の教育実践 (担当:中野 元太)	15
<b>4章 宮崎市の防災教育の現状と可能性</b>	<b>17</b>
宮崎市の小学校・中学校での防災教育の現状 (担当:宮崎市教育委員会)	17
宮崎市の小学校・中学校での実践事例 (担当:川崎 典子)	19
<b>5章 防災教育のリソース</b>	<b>21</b>

## ～成果～

### ③ 防災教育リソースブックの作成

- 教職員のための参考資料として、学校現場で防災教育に取り組む意義だけでなく、防災教育の魅力や教育方法についても述べ、防災教育の工夫に寄与するリソースを紹介するようにした。
- 研究活動に関わった研究者の専門性を活かしながら、共同執筆の形で作成することで、宮崎市で初の複合的な防災教育参考資料となった。

## ④ 宮崎県・宮崎市の防災教育の情報収集

- ・延岡市、日向市、門川町、日南市で防災教育関係者と情報交換する。

面談者	情報交換の内容
延岡市教育委員会 指導主事・加祥氏	市で取り組む防災教育プロジェクト／好事例を持つ学校の情報
門川町教育委員会 指導主事・植野氏	門川町の防災教育支援／門川中学校区での幼小中連携について 門川高校の教育実践について
日向市教育委員会 指導主事・小野氏、指導主事・大竹氏	日向市の地形と津波の危険性／好事例を持つ学校の情報
日向市立細島小学校 校長・藤原氏、防災主任・ミハラ氏	津波浸水域にある学校の位置関係／避難場所について 避難訓練の内容
日南市立油津中学校 校長・宮元氏、教頭・若林氏、防災主任・吉松氏	津波浸水域にある学校の位置関係／避難場所について 避難訓練の内容

- ・宮崎市教育委員会とともに、持ち帰った情報を共有する
- ・宮崎市教育委員会主導で、宮崎市の防災教育に関する実態調査を行う。

## ～成果～

### ④ 宮崎県・宮崎市の防災教育の情報収集

- 県内他市町村の教育委員会の防災教育に対する支援内容と小学校・中学校の防災教育の取り組みを調べ、宮崎市教育委員会に共有することができた。

#### 【参考にできる学校】

- 延岡市 北浦小学校、北浦中学校
- 日向市 細島小学校
- 門川町 全ての小学校、全ての中学校、門川高校
- 日南市 油津中学校

- （宮崎市教育委員会が実施した）宮崎市の小学校・中学校における防災教育に関するアンケート調査によって、宮崎市の防災教育の実態が明らかになった。

#### 【アンケートの質問項目】

- 避難訓練の実施回数と内容
- 防災教育で工夫している点と困っている点
- 地域との連携の有無と（連携している場合に）その内容



## ⑤ フィードバックと情報発信

- 宮崎市教育委員会が、教育委員会主催の防災主任教員対象の研修会で、宮崎市の防災教育に関する実態調査の結果について報告した。
- パイロットスタディの実践校（内海小学校と木花中学校）が、教育委員会主催の防災主任教員対象の研修会で、各校の防災教育実践について報告した。
- 宮崎市教育委員会が、「宮崎市の教育情報サイト アイビーネット」における情報発信を予定している。

(右図参照先 <https://www.mcnet.ed.jp/nc/>)

宮崎市の教育情報サイト アイビーネット



研修アンケート

トップページ
所長挨拶
センター概要
広報「教育宮崎市」
様式ダウンロード
GIGAスクール関係
保護者の皆様へ
(小5,6対象) Fun! Fun! English!
(小6対象) オンライン英会話
(中学生対象) オンライン英会話
ALT作成動画
R4ミニミニ講座申込
講座の様子(ブログ)
小学校外国語活動の海外募集
ALTコーディネーター募集
研究論文
研究員
先生方_役立つページ

ALTコーディネーター募集のお知らせ

募集要項はこちらから

▶ (教職員・大学生対象) ミニミニ講座申し込みについて

お知らせ

「令和4年度使用教科用図書採択について」を教科用図書宮崎採択地区協議会にアップしました。閲覧はこちら

GIGAタブレット端末の運用・活用・お問い合わせ等について、PTAからの質問にお答えします。(R4.1.24)  
GIGAスクール構想推進・端末運用に係る保護者の皆様からのお問合せについて → こちらから

トップページのメニューの欄に「学校の取り組み」コーナーを設置しました。各学校で取り組んでいる教育活動を紹介していきます。  
今回は、大塚小学校のプログラミング教育を紹介しています。こちらからもご覧いただけます。

動画のご案内

絵文字:NEW文部科学省「MEXTchannel」に、田野小学校 藤原綾子教諭の授業動画が活用されています。  
【なるほど! なっとく! 小学校外国語(2)】学習評価 → こちらから

絵文字:NEW文部科学省「MEXTchannel」に、西池小学校 岩切宏樹指導教諭へのインタビューが紹介されています。  
【なるほど! なっとく! 小学校外国語(3)】授業づくりのポイント → こちらから

日誌

## ～成果～

### ⑤ フィードバックと情報発信

- 宮崎市教育委員会によって、全ての市立小学校・中学校とともに、（アンケート調査で収集・分析した）宮崎市の防災教育に関する現状が共有された。
- パイロットスタディの実践校（内海小学校と木花中学校）によって、全ての市立小学校・中学校に実践校の防災教育の事例が共有された。

## ⑥ 外部関係者との協議

- ・ 宮崎市教育委員会が代表研究者・川崎と共同研究者・中野氏と指導助言者・諏訪氏と研究活動全体についてふりかえり、成果と課題を整理した。
- ・ 本研究は様々な分野の専門家、地域防災コーディネーター、地域住民など多くの外部関係者の協力で実施されたため、視察の場やパイロットスタディ実践校での検討会の場でも、宮崎市教育委員会と外部関係者との意見交換の機会を設けるようにした。

～成果～

## ⑥ 外部関係者との協議

- 宮崎市教育委員会が主体的に外部関係者と意見交換し、宮崎市の防災教育を検証することができた。
- 防災教育を共通項にして宮崎市教育委員会と学校関係者が外部関係者に出会い、これまでの疑問点を解決したり、新しい視点や見方を共有することができた。

## ⑦ 今後の方向性の検討

- ・ 宮崎市教育委員会と代表研究者・川崎で、研究活動に伴うこれまでのやり取りをふりかえり、宮崎市の防災教育の良い点・問題点を整理しながら、今後の防災教育の方向性について話し合った。
- ・ 研究活動報告書の作成にあたって、宮崎市教育委員会に報告内容を確認してもらった。

～成果～

## ⑦ 今後の方向性の検討

- 研究活動終了後も継続される教育活動や教育支援について確認しあい、宮崎市教育委員会の役割も確認した。
- 研究者や専門家など、宮崎市教育委員会および小学校・中学校を後方支援する存在があることとそれを活用する意義があることを確認できた。

# 研究活動で見えてきたこと（1） ～防災教育を学校で展開するために～

## ● 防災教育は学校と地域がつながるチャンス ●

地域に開かれた学校として地域と協働し、コミュニティスクールに活かす

## ● 学校の教育ニーズと地域のリソースの組み合わせ ●

学校が地域の課題・リソースを共有し、児童・生徒による課題解決策の提案につなげる

## ● 学校の年間計画・教育計画とのすり合わせ ●

学校が地域で計画する防災関連の行事を活用する

## ● “社会が求める理想／文科省が考える構想” と学校の実情のギャップ ●

学校と地域の現実に寄せた実効性のある教育を考えたい

# 研究活動で見えてきたこと（2） ～防災教育を学校で展開するために～

## ● 防災教育を学校から発信 ●

発信力のある学校を取り上げてPRし、全国での知名度を上げる

## ● 宮崎市教育委員会から情報発信 ●

教育委員会の情報発信システムや教育情報センターのウェブサイトを活用する

## ● 宮崎市教育委員会で学校の取り組みを把握 ●

防災主任教員研修のタイミングなどで年1～2回の調査&結果発表を行う

## ● 宮崎市の安全教育として定義 ●

高知市などでは訓練回数や時間数を設定している



# 研究活動で見えてきたこと（3） ～防災教育を学校で展開するために～

- 宮崎市教育委員会と外部関係者がつながり展開していけないか？
- 関係者ネットワークによって、学校が困っていること（マンネリ感）を助ける仕組みを構築できないか？
- 外部関係者を含めた大人たちが児童・生徒の実態（理解度や関心、居住区、通学経路、日常生活の様子）を知る必要があるのではないか？
- 宮崎市危機管理部と情報交換しながら、地域防災と学校防災の連動を図っていくべきではないか？

# 謝辞

以下の方々には本研究活動へのご協力・ご支援を賜りました。  
心より感謝申し上げます。

## 本研究活動にご協力くださった方々

内海小学校と木花中学校の先生方および児童・生徒のみなさま

内海小学校と木花中学校の教育活動をサポートされた地域の方々

青島まちづくり推進委員会と木花まちづくり推進委員会の方々

地域防災コーディネーターの方

## 本研究活動を資金面で支援してくださった方

宮崎市企画政策課のみなさま